

## シンポジウム A

### 沿岸海洋シンポジウム

「マクロスケールの沿岸海洋研究に向けて」

開催日時：2025年9月21日（日）10:00～17:00

会場：第1会場（北海道大学函館キャンパス 講義棟 大講義室）

主催：日本海洋学会沿岸海洋研究会

コンビーナー：羽角博康・伊藤幸彦・田中潔（東京大学）・松村義正（国立環境研究所）

#### 趣旨

沿岸海洋の環境は人間活動の影響を受けて大きく変化している。地球温暖化に伴うグローバルな海洋変化の影響が沿岸海洋に及ぶ一方で、陸域からは人間活動が生み出した様々な物質の供給が増えている。陸域から沿岸海洋に物質を運ぶ河川も地球温暖化の影響を大きく受け、例えば日本では大量出水の強度や頻度が増している。そうした沿岸海洋における現代的な問題を扱い、影響評価や将来予測というニーズに応えるためには、より大きな視点から沿岸海洋研究を展開することが求められる。すなわち、沿岸海洋と外洋の相互作用、異なる沿岸海域間の相互影響、および陸域の影響といった要素を沿岸海洋研究に適切に取り込んでいく必要がある。そのような沿岸海洋のマクロスケール展開に関して、本シンポジウムにおいて具体的な方向性を議論したい。

#### プログラム

挨拶：磯辺 篤彦（日本海洋学会沿岸海洋研究会会長） 10:00～10:10

趣旨説明：羽角 博康（東京大学） 10:10～10:30

1. 多重ネストモデルと粒子追跡手法を組み合わせた日本沿岸域の統合モデリングシステムの開発 10:30～11:00

松村義正（国立環境研究所）

2. 解像度 2 km 日本沿岸モデルを用いた平均沿岸滞留時間分布の推定 11:00～11:30

坂本圭（京都大学）

3. 海水一堆积物境界における栄養塩輸送が沿岸海洋に果たす役割 11:30～12:00

中島壽視（東京大学）

（昼食・休憩 12:00～13:30）

4. 黒潮起源の暖水渦が北海道・噴火湾にもたらす水温上昇と酸素供給の強化 13:30～14:00  
阿部泰人（北海道大学）
5. シミュレーションによる藻場由来炭素貯留量の推定 14:00～14:30  
西川悠（海洋研究開発機構）
6. 海洋炭素循環における河川の役割：栄養塩・炭素輸送の影響を探る 14:30～15:00  
小林英貴（富山大学）

（休憩 15:00～15:15）

7. 大気－海洋間の微量元素循環に対する人間活動の影響 15:45～16:15  
栗栖美菜子（東京大学）
8. 利根川－黒潮移行域の水塊形成と生物生産 16:15～16:45  
伊藤幸彦（東京大学）
9. 総合討論 16:45～17:00